

北海道大学 緑のピアガーデン2016を開催 平成28年熊本地震被災者へ251万円の義援金

お知らせ

・被扶養者の要件の確認





北海道大学 緑のピアガーデン2016



英語発音力講座

1 新渡戸スクール: 1年を振り返って

全学ニュース

- 2 北海道大学 緑のピアガーデン2016を開催
- 2 平成28年熊本地震被災者へ251万円の義援金
- 3 北大フロンティア基金
- 5 平成28年度北海道大学公開講座「『国のかたち』を案ずる時代の知恵」が終了
- 6 北海道大学入試説明会を実施
- 6 平成28年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行
- 6 日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を北方生物圏フィールド科学センターの2氏が受賞
- 7 北キャンパスで合同防災訓練を実施
- 7 国際本部で「ホリデーイン日高」を開催
- 8 現代日本学プログラム課程が新十津川町観光資源発掘に協力
- 9 「英語によるアカデミック・プレゼンテーションの基礎」研修を開催
- 9 ルーブリック評価表作成ワークショップを開催
- 10 英語発音力講座を開催
- 10 北海道地区国立大学における教職員及び学生の個人情報の取扱いに関する研修会を開催
- 11 イノベーション・エコシステムマッチングサミット in HOKUDAI 日立北大ラボ開設記念式典を開催
- 12 「共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア2016」を実施
- 12 北洋銀行ものづくりテクノフェア2016に出展
- 13 国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 人獣共通感染症グローバルステーションが第4回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議を開催

部局ニュース

- 14 総合博物館リニューアルオープン
- 15 水産科学研究院が鹿追町と連携協定を締結
- 15 スラブ・ユーラシア研究センターでロシア極北をテーマに国際シンポジウムを開催

- 16 メディア・コミュニケーション研究院公開講座「関西弁を通して学ぶ言葉の魅力」が終了
- 16 文学研究科で科研費申請に関するFD研修を開催
- 17 会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催
- 18 経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターでシンポジウムを開催
- 18 工学系部局で「第1回こころのケアに関する講習会」を開催
- 19 北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
- 19 北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施
- 20 北海道大学病院で「第54回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施
- 20 附属図書館でフィンランドをテーマとした図書展示を開催
- 21 附属図書館「めざせ100万語！英語多読マラソン」スタートアップガイダンスを開催
- 22 太田守名誉教授より大学文書館で沿革資料を受贈

お知らせ

- 23 被扶養者の要件の確認

レクリエーション

- 23 平成28年度学内バレーボール大会の開催

諸会議の開催状況 24

学内規程 24

研修

- 25 平成28年度「統計学の初歩」講座

表敬訪問 26

人事 26

- 28 新任教授紹介
- 28 新任部課長等紹介



総合博物館リニューアルオープン



メディア・コミュニケーション研究院
公開講座「関西弁を通して学ぶ言葉の魅力」



附属図書館
フィンランドをテーマとした図書展示



大学文書館
太田守名誉教授より沿革資料を受贈

新渡戸スクール: 1年を振り返って

副学長 やました まさかね 山下 正兼



本学では「NITOBE 教育システム（New Initiative in Teaching Opportunities for Best Education）」に基づく学部生対象の新渡戸カレッジと大学院生対象の新渡戸スクールを実施し、グローバル人材の育成を図っています。新渡戸スクールでは、各研究科等で習得する専門性を活かす「+ a の力（3 + 1 の力*）」を獲得させることで、世界の課題解決に貢献できる人材の育成を目指しています。

新渡戸スクールの開校から1年が経過した現時点で、これまでの成果、問題点、及びその解決策について紹介させていただきます。

主な成果

1. 主に修士課程の学生が対象の基礎プログラム（定員60名）に対し、117名の応募があり、64名が入校した。
2. 主要4科目の授業アンケートにおいて、多くの学生が満足したと回答した（春ターム73%、夏ターム87%、秋ターム71%、冬ターム93%）。
3. 「3 + 1 の力」の獲得状況に関する学生の自己評価が上昇し、適性能力診断〔SEQ：Student Emotional Intelligence Quotient〕でも、それが確認された。
4. 英語科目履修者の多くは英語力が上がったと自己評価し（春・夏ターム85%、秋・冬ターム100%）、また入校時に比べてスクール生のTOEICスコアが平均で55点上昇した。
5. アンケートの自由記述では、「専門性の異なる学生との交流は貴重な経験だった」「チーム活動に必須の技能や英語力を得ることができた」「メンターとの交流は役立った」など、スクールの意図を評価する声が多数寄せられた。

主な問題点と解決策

1. 大学院とスクールでの学習の両立が困難であるとの理由で7名の辞退者があった。これを踏まえ、柔軟な履修を可能とするカリキュラムの改訂を実施した（春～秋タームの必修科目を春タームのみ必修とした）。

2. 運営組織が縦割りで多層構造のため、迅速な対応が困難であった。そこで、副校長／教頭が参加する会議を週に1回定期的に開催し、諸問題に迅速に対応することとした。
3. 来年度からの基礎プログラムの定員倍増や上級プログラムの開講に向けて、全学支援体制をさらに強化する必要がある。その第一歩として、全大学院から選出されている教務専門委員会委員に入校者選抜とアドバイザー業務を担当していただくこととした。
4. カレッジや同窓会との連携を強化する必要がある。スクール生がカレッジ・フェロー講演会に参加することを推奨、スクール生がTAとしてカレッジ生の教育を支援、スクール生の教育支援にあたるメンターを同窓会が推薦、などの方策で連携を強化する。
5. 修士課程を主対象とする基礎プログラム科目は1年で終了するため、修士2年生への対応が困難である。スクールの目的は各大学院で習得する専門性を活かす力を獲得させることなので、スクール科目8単位の取得とポートフォリオに基づく「3 + 1 の力」の評価により、修士号の取得を前提とせず、1年で基礎プログラムを修了させるのが望ましい。これは学生の就職活動にも有利に働くと期待される。

新渡戸スクールを実際に運営して修正すべき点がいくつか見つけられました。基本構想に示された理想と現実のギャップを埋めるため、迅速に対応しましたが、まだ不完全な部分があります。来年度からは基礎プログラムの定員が2倍になり、新たに博士課程学生の上級プログラムも開始します。これまで以上に全学的な協力が必要です。今後も新渡戸スクールに対して、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくご願ひ申し上げます。

* 3 + 1 の力

「能力更新力」、 「組織形成力」、 「社会還元力」と、 基盤となる「専門職倫理」

■全学ニュース

北海道大学 緑のビアガーデン2016を開催

今年で11回目となる緑のビアガーデンを、北海道大学校友会エルクとの共催で7月26日（火）から7月29日（金）まで開催し、無事終了しました。期間中は雨が多く、天候に恵まれませんでした。会場の百年記念会館を全館開放し、例年とは違ったビアガーデンを多くの皆様に楽しんでいただくことができました。

北大キャンパスの夏の風物詩として地域に定着し、毎年楽しみにして下さるお客様が増え、賑わい溢れるビアガーデンに成長したことを実感できる4日間でした。

（総務企画部広報課）



北大の夕べを楽しむ皆様



百年記念会館2階カウンター席の様子

平成28年熊本地震被災者へ251万円の義援金

4月14日から断続的に発生した「平成28年熊本地震」の被災者の方々を支援するため、山口佳三総長を发起人として、義援金への協力を呼びかけておりましたところ、総額2,512,500円の義援金が集まりました。

お寄せいただいた義援金は、その使

途が見えるよう地方公共団体及び教育機関等への送付を検討しましたが、被害が広範囲に及ぶことから、幅広く被災者に届くよう日本赤十字社へ送金させていただきました。7月27日（水）に、徳久治彦理事・事務局長が日本赤十字社北海道支部へ赴き、大崎政仁事

務局長へ義援金目録を手渡しました。

教職員の皆様から多くのご厚志が寄せられたことに、改めてお礼申し上げます。

（総務企画部広報課）



日本赤十字社北海道支部 大崎事務局長へ目録を手渡す徳久理事・事務局長（左）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	19,317件	3,268,419,962円
基金累計額（7月31日現在）	教職員の寄附率	37.7%（1,511件/4,010人）

7月のご寄附状況

法人等16社、個人173名の方々から15,385,784円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

医療法人社団青木内科クリニック、伊藤組土建株式会社、いわした内科クリニック、株式会社ウェザーコック、株式会社エフ・オブジェクト、医療法人耕仁会 札幌太田病院、スワンアイクリニック、医療法人社団 つつみ整形外科クリニック、寺田医院、日東電工株式会社、医療法人社団 はまだ内科・神経内科クリニック、広島ガス株式会社、株式会社もりもと

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	相澤 宏修	浅井 孝徳	朝倉 充	浅野 賢二	浅野 讚一郎	池端 隆	石井 出
伊丹 儀友	稲田 ゆり	井上 清嗣	井上 芳子	今田 明美	入澤 秀次	内山 喬一	枝沢 寛
大滝 純司	小内 透	小原 大和	小柳 毅	帰山 雅秀	鹿兒島武志	笠原 正典	金川 眞行
狩野 裕之	川井 茂和	河合 新三	川上 太平	川崎 和雄	河本 充司	菊地 浩吉	菊地由生子
金 正出	国則 公秀	熊谷 輝	栗林 道夫	小坂橋泰文	合田由紀子	小林 淳	小林 好
小室 明	斉藤 久	齊藤 正浩	酒井 圭輔	坂尻 覚	崎間 篤	佐々木 潔	佐々木卓爾
三升畑元基	篠原 信雄	渋谷 正人	清水 智之	下村 仁司	蛇沼 俊二	勝賀瀬 貴	庄司 哲明
菅谷 眞	清野 浩一	瀬田石智敏	瀬波栄潤	高田 史朗	高橋 喜一	高橋 承吾	高橋 丞二
高畑 智嗣	丹野千枝美	近澤 良	辻 功	土家 琢磨	寺澤 睦	都 珠賛	銅谷 賢治
富樫 健	豊田 威信	鳥井 史彦	鳥潟 肇	永井 雅彦	長岡 淳一	長瀬 俊彦	中平 淳
中村 功	長本 克義	成田 伸伍	成田 忠義	西村 泰弘	野村 健司	橋爪 俊明	橋本 尚則
濱田 直樹	浜向 賢司	林 裕子	日野 睦雄	平井 敏文	平林 高之	廣山 雅敏	福田 富夫
藤田 洽介	船津 保浩	古屋 統	本郷 隆二	本間 均	本村 文宏	牧内 勝哉	増田 健児
松本 豊	三上 純	三品 孝行	水町 貴諭	向山 悦子	森 清	矢ヶ崎啓一郎	安延 義弘
山内 隆嗣	山口聡一郎	山口 良文	山中 啓義	山本 太郎	卯 和順	由利 賢次	吉田太久美
吉田 広志	吉村 淳	脇坂 明美	渡辺千香子	渡邊 政美			

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

株式会社ウェザーコック，医療法人社団 つつみ整形外科クリニック，日東電工株式会社

（個人）

石井 出，大滝 純司，笠原 正典，菊地 浩吉，菊地由生子，小林 淳，勝賀瀬 貴，庄司 哲明，瀬田石智敏，高畑 智嗣，林 裕子，古屋 統，三品 孝行，向山 悦子

感謝状の贈呈

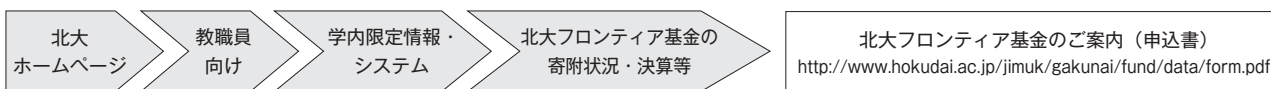


株式会社AIRDO 様（平成28年7月20日）

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>）のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

平成28年度北海道大学公開講座 「『国のかたち』を案ずる時代の知恵」が終了

7月4日（月）から25日（月）まで、本年度の公開講座（全学企画）を開催しました。

戦後70年の節目を機に、安全保障や憲法の問題をはじめとして「国のかたち」が多くの人の思案と議論の的となる時代を迎える中、将来の日本の姿を構想する鍵となる諸課題について、8人の講師が、自然災害や、急速な高齢化の中での医療・創薬、経済格差と教育、戦後民主主義の思想とその今日的

意義、IT・ロボットによる新たな農業の姿、海洋生物資源の保全、観光立国の可能性と課題、リサイクルのあり方といった多岐にわたるテーマについて、各講師の長年の研究成果をふまえた講義をお届けしました。また今回は、全学教育の一般教育演習（フレッシュマンセミナー）と連動する形で、総合教育部の1年生23人が、各回講義の冒頭、交代で舞台上に立って講師紹介を行う実習も新たに試み、受講者の

方々にもご好評をいただきました。

各回の講義終了後には受講者から熱心な質問が寄せられ、生涯学習に対する意欲の高さが感じられました。

最終講義の終了後には閉講式が行われ、全8回中6回以上出席した72名の受講者に修了証書が授与されました。

（学務部学務企画課）

各回の講義題目と講師

- 第1回「自然災害は予測できるか」（農学研究院 特任教授 丸谷知己）
- 第2回「高齢化社会と創薬」（薬学研究院 准教授 堺谷政弘）
- 第3回「現代日本における子育てとお金」（教育学研究院 准教授 鳥山まどか）
- 第4回「戦後民主主義の思想と冷戦終焉後の変容」（法学研究科 教授 権左武志）
- 第5回「IT・ロボット技術が支える新しい農業の姿」（農学研究院 教授 野口 伸）
- 第6回「海洋生物資源を理解して上手につきあう」（北方生物圏フィールド科学センター 教授 宮下和士）
- 第7回「観光が作り変えるこの国のかたち」（メディア・コミュニケーション研究院 准教授 岡本亮輔）
- 第8回「よいリサイクルかどうかの見分け方」（工学研究院 教授 松藤敏彦）



受講風景



修了証書の授与

北海道大学入試説明会を実施

7月22日（金）に学術交流会館において、高等学校等の進路指導担当教諭を主な対象とした入試説明会を開催し、高等学校等90団体から134名の参加がありました。

説明会では新田孝彦理事・副学長から挨拶と本学の現状についての説明があった後、喜多村昇アドミッションセ

ンター副センター長が平成28年度入試結果の概要について説明を行いました。

また、説明会終了後にアドミッションセンター教職員による個別相談会を行い、総合入試入学者の学部移行状況に関する質問等が寄せられました。

（アドミッションセンター）



新田理事・副学長からの挨拶

平成28年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行

7月14日（木）、情報教育館スタジオ型多目的中講義室において、平成28年度北海道大学新渡戸賞授与式を行いました。

新渡戸賞は優秀な学部生の育成を目的として平成17年度に設けられた制度で、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次生に対して、奨励金が給付されます。今年度は95名が受賞しました。

授与式は新田孝彦理事・副学長、出口寿久学務部長列席のもと、新田理事・副学長から受賞者代表へ賞状が授

与されました。

続いて新田理事・副学長から挨拶があり、新渡戸稲造博士の業績についてのお話と共に「今回の受賞を契機に、皆さんには自らの教養を積極的に深め、これからも大学生活をより有意義なものとし、世界に羽ばたく人間へと成長していただきたい」と激励の言葉を贈りました。

受賞者達は偉大な先輩の名を冠した賞の受賞者として、今後も勉学に一層励むべく、自覚を新たにしていました。

（学務部学生支援課）



賞状の授与



授与式の様子

日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を北方生物圏フィールド科学センターの2氏が受賞

7月1日（金）、独立行政法人日本学術振興会より、「平成28年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」の表彰者が公表され、北方生物圏フィールド科学センターの宗原弘幸准教授と四ツ倉典滋准教授の2名が表彰されま

した。

この推進賞は、科学研究費助成事業（科研費）による研究成果を、小・中学生や高校生に体験・実験・講演を通じて分かりやすく紹介する日本学術振興会の事業である「ひらめき☆ときめ

きサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI～」にて、継続的にプログラムを実施している研究者に授与されるものです。

（研究推進部研究振興企画課）

北キャンパスで合同防災訓練を実施

北キャンパスでは7月12日（火）、創成研究機構、電子科学研究所、触媒科学研究所、次世代物質生命科学研究所センター、人獣共通感染症リサーチセンター、シオノギ創薬イノベーションセンター、北極域研究センター、産学・地域協働推進機構合同の防災訓練を実施しました。

訓練当日は、札幌市北消防署の立ち会いのもと、500名を超える学生・教職員等の参加により、創成科学研究棟3階からの出火を想定した自衛消防隊による通報連絡、避難誘導、初期消火等の各訓練に併せて、学生・教職員等による一次避難場所、避難集合場所への避難訓練等が、防災行動の能率・統

制的推進と防災意識の高揚を図ることを目的に行われました。

避難訓練終了後、水消火器による消火訓練を実施し、その後、札幌市北消防署員より避難時における情報収集の重要性についてのご講評がありました。また、自衛消防隊本部長の川端和



消火訓練の様子

重創成研究機構長から訓練参加者及び協力者への慰労の辞と、今回の訓練での諸問題をフィードバックし実際の火災に生かすことの重要性について講評があり、一連の訓練を終了しました。

（研究推進部研究支援課）



札幌市北消防署員による講評の様子

国際本部で「ホリデーイン日高」を開催

7月9日（土）・10日（日）の2日間、日高町にて「ホリデーイン日高」を開催しました。この事業は、留学生の異文化交流を目的として、また平成23年度からは、青木麻衣子准教授が担当している一般教育演習（フレッシュマンセミナー）「『国際交流』を実践する」と連動して、国際本部と国立日高青少年自然の家との共催で毎年開催しており、25回目となる今年は、11ヶ国18名の外国人留学生と、21名の日本人学生が参加しました。

1日目は日本人学生が企画した、アイヌに関するクイズ等のオリエンテーションに参加した後、昼食には、鹿の焼肉、オオウバユリやイナキビの団子

など、アイヌ民族の料理がふんだんに盛り込まれた弁当を食べました。午後からは、平取町立二風谷アイヌ文化博物館で日本語、英語の両方で説明を受けながら、アイヌの民具について見学しました。夕方からは国立日高青少年自然の家に移動し、アイヌの早口言葉や歌、アイヌ舞踊を体験しました。参加者は説明に真剣に耳を傾け、最後には自分たちから前に出て踊り出すなど、大いに盛り上がりました。そして夜には、敷地内のグリーンホールでグループ毎に分かれてバーベキューを食べ、グループ内の親交を深めていました。

2日目は午前中に、アイヌの伝統的な文様を学んだうえで、コースターの

木彫り体験を行いました。参加者はウロコ彫りという彫り方に苦戦しながらも、最後は思い思いのコースターを完成させていました。午後には、各グループで2日間の活動のまとめを行った後、そのまとめについて発表し、イベントは終了しました。

参加者は2日間を通じて、留学生と日本人からなる合計6グループに分かれてプログラムを体験することで、アイヌ文化について理解を深めるとともに、参加者間での交流が深まり、それぞれの文化を互いに学ぶ良い機会となりました。

（国際本部国際交流課）



二風谷アイヌ文化博物館での様子



アイヌ舞踊の様子



バーベキューの様子

現代日本学プログラム課程が新十津川町観光資源発掘に協力

現代日本学プログラム課程では、7月16日（土）から18日（月・祝）まで、新十津川町で観光資源の発掘を目的としたワークショップを行いました（担当教員：メディア・コミュニケーション研究院 スザンネ・クリーン准教授、シュテファニー・アスマン特任教授）。

現代日本学プログラム課程専門科目及び国際交流科目の集中講義として実施したこのワークショップは、新十津川町が取り組む観光資源発掘事業に協力する形で昨年度から実施しているもので、今年度は一般社団法人北海道開発協会の助成を受けています。

「新十津川町産の食材を使い、学生それぞれの食文化の観点を活かしたメニューの提案」をテーマとし、同課程の外国人留学生（ベトナム、シンガポール、フィンランド）7名と学士課程の日本人学生2名の計9名が参加しました。ワークショップ実施前には、本学で準備のためのレクチャーや新十津川町民と共同で調理実習を数回開催しました。

新十津川町で実施したワークショップでは、町内の文化施設の見学、農家へのホームステイ等を通じ、地域の方々との交流を深め、地域の食材を活かしたメニューを考案し、最終日には

実際に調理して町役場職員や町民が試食する機会を設け、選考会を兼ねた交流会を行いました。学生達が提案したメニューは好評で、普段接触のない多様なステークホルダー同士が、地域固有の食文化を共に考える大変有意義な機会となりました。

このワークショップの報告会は、10月21日（金）に国際本部で実施する予定です。関心をお持ちの方はぜひご来場ください。

（国際本部国際教務課）



本学で実施した調理実習の様子



新十津川町で町民の方々と調理する学生

「英語によるアカデミック・プレゼンテーションの基礎」研修を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、教職員に対するFDの一環として、6月30日（木）にフロンティア応用科学研究棟セミナールームにおいて「英語によるアカデミック・プレゼンテーションの基礎」研修を実施しました。

本研修は、研究のアウトリーチ活動の幅を広げるために重要な一つの要素である、英語によるプレゼンテーション能力の基礎を学ぶことを目的として実施したもので、道内大学等教職員33名が参加しました。

研修は、講師として、研究者の学術論文の校正、学会発表準備や海外赴任前の英語研修などを年間500時間以上担当している株式会社トムからPeter Lambert氏を招き、英語でプレゼンテーションを行う際の注意点及びいくつか

の発表スタイルについて講演があった後、参加者は事前に準備した簡単な発表用スライドを用いて、早速実践してみるという内容で進められました。実践中は講師が一人ひとりに丁寧に助言をして回っており、参加者にとって貴重な機会になったと思われます。

事後アンケートでは、「講師が各自のレベルを見定めて質問、声かけを調整してくれた」「演題の準備にやや時間がかかったが、プレゼンテーションの良い練習になった」等の意見が見られ、多くの参加者に好評でした。

高等教育研修センターでは、今後も教職員を対象とした様々な研修を開催する予定ですので、積極的にご参加願います。

（高等教育推進機構）



講演の様子



参加者に助言するLambert氏

ループリック評価表作成ワークショップを開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、教員に対するFDの一環として、7月8日（金）に高等教育推進機構S5講義室において、ループリック評価表作成ワークショップを実施しました。

本ワークショップは、教員の成績評価における信頼性・客観性・透明性などが強く求められている現状において注目を集めているループリック評価*について、基本的な知識を学び、実際にループリック評価表を作成することを目的として実施したもので、道内大学等教職員31名が参加しました。

ワークショップは、高等教育研修センターの山本堅一特任准教授を講師として、基本的知識に関する講演があった後、参加者が実際に使用するためのループリック評価表を作成し、他の参加者からのフィードバックを基にブラッシュアップを行うという作成重視

の研修が行われました。

参加者のアンケートからは「評価観点を洗い出し、段階付けの方法を考える過程や、普段、何となく行っていた自分の評価の視点を言語化することができました」「他の方々から色々な意見を聞いてとても参考になりました」等の意見が見られ、多くの参加者に好評でした。

高等教育研修センターでは、今後も教職員を対象とした様々な研修を開催

する予定ですので、積極的にご参加願います。

*ループリック評価

評価の観点を縦に列挙し、横にその基準を明記した表を用いた評価手法。採点の根拠が明確となり、学生・教員双方にとって、プレゼンテーション、レポート、実習や制作物などの有用な評価手法として注目を集めている。

（高等教育推進機構）



講演の様子



グループワークの様子

英語発音力講座を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、教職員に対するFD・SDの一環として、7月9日（土）、11日（月）に高等教育推進機構各講義室において英語発音力講座を実施しました。

本講座は、社会のグローバル化が進行する中、授業や日常業務において英語でコミュニケーションを取ることができる教職員の養成を支援するために実施したもので、両日合わせて約100

名の教職員が参加しました。

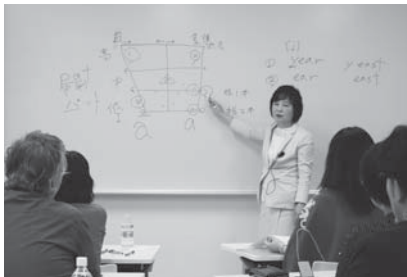
講師として、音声学について詳しい株式会社プロテストの奥村真知代表取締役をお招きし、英語の発音を聴音レベル（舌や歯などの位置関係等）で細やかに理論的にご指導いただきました。

事後アンケートでは、「分かりやすい発音の解説を体系的に説明されて大変勉強になった」「今まで分からな

かったところ、不明なところがはっきり分かりとても良かった」等の意見が見られ、多くの方に好評でした。

高等教育研修センターでは、今後も教職員を対象とした様々な研修を開催する予定ですので、積極的にご参加願います。

（高等教育推進機構）



研修を行う奥村氏



研修の様子

北海道地区国立大学における教職員及び学生の個人情報の取扱いに関する研修会を開催

北海道地区国立大学連携教育機構では、7月6日（水）に「北海道地区国立大学における教職員及び学生の個人情報の取扱いに関する研修会」を高等教育推進機構N1講義室において開催しました。

同研修会については、現在、北海道地区国立大学で推進している北海道地区国立大学教養教育連携実施事業において、大学間で教職員及び学生の個人情報を取り扱っていることから、各大学の事務職員を対象に、個人情報の取扱いに関する意識向上を図り、適正な事務処理を遂行することを目的として、平成26年度から実施しています。

今年度は、「サイバーセキュリティの意識改革」をテーマとして、本学情報基盤センターの南 弘征サイバーセキュリティセンター長が講演を行いました。

南センター長は、高等教育機関にお

けるサイバーセキュリティの現況と問題点、個人情報保護に関するガイドラインの解説、「標的型攻撃」や「水飲み場型攻撃」等の具体的な手口及び実践的な対策方法について、具体的な事例を交えながら講演を行いました。

同研修会は、双方向遠隔授業システムにより、本学会場と本学函館キャンパス及び北海道地区の国立大学に接続して行われ、約200名が参加しました。

参加者からは、「日常的に多くの個

人情報を扱う職務なので、気をつけなければと改めて意識できて良かった」「どのような手口で情報が奪われるのかがわかった。自分が当事者であるという意識をしっかりと持ち、気を配ることが重要だと感じた」等々の意見が寄せられ、同研修会を通じて、個人情報の取扱いに対する意識向上が図られました。

（学務部教育推進課）



講演する南サイバーセキュリティセンター長



研修を受講する参加者（北大会場）

イノベーション・エコシステムマッチングサミット in HOKUDAI 日立北大ラボ開設記念式典を開催

産学・地域協働推進機構では、7月15日（金）、FMI国際拠点に株式会社日立製作所のラボの開設を記念した「イノベーション・エコシステムマッチングサミット in HOKUDAI 日立北大ラボ開設記念式典」を開催しました。

本式典は、民間等の外部機関と共通の課題について継続的な共同研究を実施することにより、社会的に高い付加価値を持つ産業を創出し、社会イノベーションを推進することを目的として平成26年度から創設した「産業創出講座等制度」に基づき、今回、株式会社日立製作所 研究開発グループが、産業創出部門として本学内に「日立北大ラボ」を開設したことを契機に、北海道経済のありたい未来を展望し、北海道イノベーション・エコシステムの創生をめざすという趣旨のもと、北海道内の産学官の関係者が一堂に会するキックオフミーティングとして開催したものです。

サミットでは、高橋はるみ北海道知事及び高橋賢友北海道経済連合会会長から来賓祝辞をいただき、鈴木教洋日立製作所執行役常務CTO及び山口佳三総長から主催者挨拶が行われました。続いて、山田真治日立製作所基礎研究センタ長から「日立エンベデッドラボ構想」の概要説明が行われ、研究説明では、吉野正則日立北大ラボ長から「日立北大ラボの計画」、玉腰暁子医学研究科教授から「COI（センター・オブ・イノベーション）」、齊藤誠一北極域研究センター長から「北極域研究センター」、西井準治電子科学研究所所長から「電子科学研究所」の研究内容についての紹介が行われました。次に、坂本修一文部科学省産業連携・地域支援課長による「今求められる大学発イノベーション」の基調講演が行われ、連携事例発表では、松野 哲岩見沢市長から「『健康経営都市』具体化に向けた日立北大ラボとの連携への

期待」、横内龍三北海道経済同友会代表幹事から「北極海航路への期待」の発表が行われました。ミニシンポジウムでは、モデレーターとして川端和重理事・副学長、パネリストとして辻泰弘北海道副知事、吉岡 亨札幌市副市長、松野岩見沢市長、株式会社北海道二十一世紀総合研究所の中村栄作代表取締役社長、鈴木日立CTO、コメンテーターとして坂本文部科学省課長がそれぞれ担当され、北海道経済のあるべき未来像と日立・北大への期待について活発な議論が行われました。

最後に、鈴木日立CTO及び山口総長による調印式が行われた後、ネットワーキングパーティーが行われ、相互に有益な情報交換がなされ、盛況のうちに閉会となりました。

（産学・地域協働推進機構）



高橋北海道知事の挨拶



松野岩見沢市長の発表



ミニシンポジウムの様子



鈴木日立CTOと山口総長（左）による調印式

「共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア2016」を実施

7月21日（木）、アクセスサッポロ（札幌市白石区）にて「共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア2016～北海道を自動走行の実証試験の開発拠点に～」を実施しました。

本イベントは、道内の研究機関（大学・高等専門学校）の研究者が、主に道内の企業向けに、北海道が進めている北海道自動車安全技術検討会議における各大学・高等専門学校が保有する

自動走行などの自動車安全技術に関する研究シーズを分かりやすく紹介し、共同研究のきっかけを作るのが目的です。

今回は、本学、北見工業大学、公立はこだて未来大学、北海道科学大学、北海道科学大学短期大学部、室蘭工業大学、旭川工業高等専門学校、函館工業高等専門学校、北海道が主催、株式会社北洋銀行、北大リサーチ&ビジネ

スパーク推進協議会が後援となり、12件の研究シーズの紹介を行いました。本学からは、文学研究科人間システム科学講座の河原純一郎特任准教授が発表しました。

今後の共同研究等に発展することを期待しています。

（産学・地域協働推進機構）



会場の様子



文学研究科 河原特任准教授

北洋銀行ものづくりテクノフェア2016に出展

7月21日（木）、アクセスサッポロ（札幌市白石区）にて「北洋銀行ものづくりテクノフェア2016」が開催され、本学も出展しました。

本フェアは優れた技術や製品を有する中小企業、大学、支援機関等が販路拡大や企業間連携の促進、情報交換や技術交流を通じて、北海道のものづくり産業の振興を図ることを目的としています。今回は出展者が237社、来場者が約4,800名となり、過去最多の規模

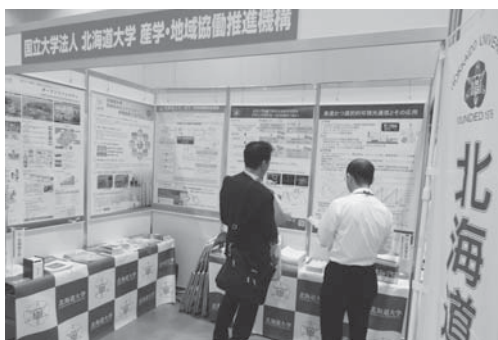
となりました。

本学のブースでは、文学研究科の河原純一郎特任准教授の研究シーズ「少サンプル数で有用な被験者実験をデザインする手法」、情報科学研究科の杉本雅則教授の研究シーズ「高速かつ選択的可視光通信とその応用」、共用機器部門の「オープンファシリティー」「先端NMRファシリティー共用促進プログラム」、産学・地域協働推進機構の「ワンストップ窓口」などの紹介

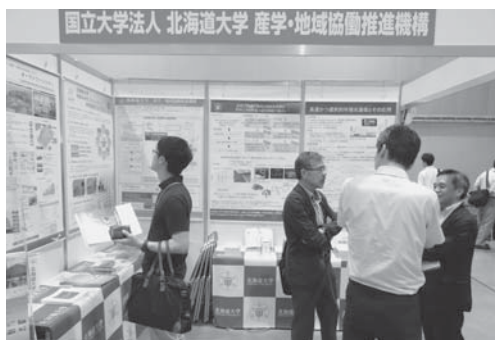
を行い、多くの方に訪問していただきました。共同研究までの手順や本学研究者の研究シーズについて具体的な相談もありました。

中小企業や中小企業支援機関等の皆様との交流がますます深まった1日となりました。

（産学・地域協働推進機構）



ブースの様子



国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 人獣共通感染症グローバルステーション が第4回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議を開催



集合写真

国際連携研究教育局が平成26年4月に本学に設置されて以来、人獣共通感染症グローバルステーションでは、メルボルン大学、アイルランド国立大学ダブリン校、アブドラ国王科学技術大学及び本学の間でコンソーシアムを形成し、人獣共通感染症の克服に向けた研究と教育を推進しています。7月7日(木)・8日(金)に人獣共通感染症リサーチセンターで第4回コンソーシアム会議(The Fourth Meeting of the Consortium for the Control of Zoonoses)を開催しました。

7日(木)の会議には、海外大学教員13名と本学教員17名が参加し、共同研究の進捗報告、新規研究課題等につ

いて活発な情報交換と議論が行われました。8日(金)には公開シンポジウムが開催され、メルボルン大学のDavid C. Jackson教授、Lorena E. Brown教授、Elizabeth L. Hartland教授、アイルランド国立大学ダブリン校のWilliam W. Hall教授、アブドラ国王科学技術大学のArnab Pain教授及び本学の喜田宏ユニバーシティプロフェッサー、杉本千尋特任教授、澤洋文教授が、現在の研究成果と今後の研究計画を発表しました。またコンソーシアム会議に合わせ、GI-CoRE中間評価の実地調査のため、国際医療福祉大学塩谷病院の倉田毅教授と米国セント・ジュード小児研究病院のRobert G. Webster教



シンポジウムの様子

授が来学され、当グローバルステーションの教育研究体制と研究実施状況に関して査察されました。

本シンポジウムには、以上の発表者を含む教職員、学生、来賓等合計102名が参加し、活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに終了しました。今回のコンソーシアム会議は、人獣共通感染症の克服を目指した基礎、応用、臨床研究の持続的推進、4大学間でのさらなる連携強化を目指すことを再確認する有意義な機会となりました。

(国際連携研究教育局)

■ 部局ニュース

総合博物館リニューアルオープン

総合博物館は、耐震改修工事に伴い平成27年4月1日から公開を休止していましたが、7月26日(火)にリニューアルオープンしました。

この度のリニューアルでは、札幌農学校時代から蓄積された膨大な標本・資料とその研究成果を紹介する展示を充実させました。また、全12学部の教育研究といくつかの部局の先進的な研究を紹介する展示「北大のいま」、標本を五感で体験していただく「感じる展示室」、研究者や博物館ボランティアのバックヤードでの活動を垣間見ていただく「ミュージアムラボ」を新設しました。他にも、多目的スペースやラウンジ、ミュージアムショップやカフェからなる「知の交差点」エリアも新設しました。夏季(6~10月)の金曜日は午後9時まで開館することとし、これまで以上に市民に親しまれる博物館を目指します。

リニューアルオープン当日は爽やかな夏空に恵まれ、開館前から多くの方々に並んでいただきました。午前10

時の開館時には、ミュージアムマイスターの日下 葵さん(理学院修士1年)が歓迎のスピーチを行い、14名の学生が来館者を館内へと順次ご案内しました。学生は大学院の授業「博物館コミュニケーション特論」の受講生で、各自の専門分野を活かし、この日のために特別な展示解説ツアーを企画・実施し、様々な年代の来館者と博物館をつなぐ役割を果たしました。また、ボランティアによるポップラチェンバロコンサートは満席になる盛況ぶりでした。

午後からは理学部大講堂にて、リニューアルオープン記念式典を行いました。協賛企業の皆様や学内関係者が参加する中、総合博物館の中川光弘館長の式辞の後、山口佳三総長から挨拶があり、来賓の北海道博物館の石森秀三館長、総合博物館の小泉 格初代館長から祝辞を賜りました。続いて、江田真毅講師より総合博物館リニューアルの概要について説明を行いました。

その後、総合博物館正面玄関前に移

動し、石森北海道博物館長、小泉初代館長、山口総長、川端和重理事・副学長、中川館長によるテープカットを行い、続く内覧会では館内各所を博物館教員が解説案内しました。

夕方からファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムで行われた記念祝賀会にも、来賓の皆様、多くの関係者にお集まりいただき、当館と相互協力協定を結んでいるむかわ町の竹中喜之町長、協賛企業を代表して株式会社AIRDOの谷 寧久代表取締役社長よりスピーチをいただきました。途中、リニューアルオープン初日の来館者が、2,091名との発表があり、会場からは大きな拍手が起きました。関係各位、協賛いただきました皆様のご協力により、無事リニューアルオープンを迎えることができましたことを御礼申し上げます。

(総合博物館)



リニューアルオープンを心待ちにする来館者



記念式典での山口総長による挨拶



博物館前でのテープカット
(左から、川端理事・副学長、小泉初代館長、石森北海道博物館長、山口総長、中川館長)



内覧会の様子

水産科学研究院が鹿追町と連携協定を締結



握手を交わす安井研究院長（左）と鹿追町の吉田町長

水産科学研究院は、鹿追町と学術・教育・文化及び地域振興に関する各分野において協力し、相互の発展充実を目的として、7月4日（月）に連携協定を締結しました。当日は、鹿追町役場で協定調印式が行われ、本研究院の

安井 肇研究院長、鹿追町の吉田弘志町長が協定書に署名しました。

水産科学研究院と鹿追町との交流は、平成25年頃から「然別湖における遊漁管理」に関する研究を開始したことから始まっており、また同町からの

要請を受け、チョウザメ養殖に関する技術指導も開始していました。今回の協定締結により、鹿追町環境保全センター バイオガスプラントの余剰熱を利用したチョウザメ養殖の技術指導や、然別湖の固有種ミヤベイワナ（オショロコマの亜種）の資源保全への協力など、これまで実施してきた内容をさらに充実させ、町内の水産資源を活用した経済の活性化に取り組みます。また、教員・学生が現地での実習・研修などを実施し連携を進めることで、今後ますますの教育・研究及び地域貢献の推進が期待されています。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

スラブ・ユーラシア研究センターでロシア極北をテーマに国際シンポジウムを開催

スラブ・ユーラシア研究センターの定例の夏期国際シンポジウムを、「ロシア極北：競合するフロンティア」をテーマとして、7月7日（木）・8日（金）にセンター大会議室で開催し、2日間で178名が参加しました。本センターでは、日本学術振興会のフィンランドとの二国間交流事業として、「ロシア最後のエネルギー・フロンティア：極北地域の持続的発展への挑戦」と題する共同研究を平成26年から2年間行ってきました（日本側の研究代表者：田畑伸一郎）。今回の国際シンポジウムは、この共同研究の成果を発表する場と位置付けられ、このプロジェクトのメンバーではない、ロシアをはじめとする第三国の研究者も報告を行いました。

シンポジウムでは、6つのセッションが設けられ、ロシア極北地域におけるエネルギー開発、先住民の生活、環境問題、北極海航路、ロシアの北極外交、極北のイメージなどをテーマに、計18本の報告がなされました。報告者の国別では、日本が6本、ロシアが5

本、フィンランドが3本、ノルウェー、オランダ、ドイツ、中国が各1本でした。プロジェクトは学際的なもので、本シンポジウムにも、経済学、地理学、地質学、工学、政治学、国際関係論、社会学、文化人類学、文学など北極に関わる多様な分野の研究者が集まりました。例年のセンターの国際シンポジウムでは見かけないような自然科学系の研究者が参加されていたことも大きな特徴の一つでした。

ロシア北極圏地域における石油・ガス開発や北極海航路は、原油価格低落の大きな影響を受けています。また、ウクライナ紛争に起因する経済制裁や

ロシアと欧米の対立も、ロシア極北地域の開発や北極をめぐる国際関係に悪影響を及ぼしています。そのような逆風の中でも、ヤマル半島におけるサベッタ港の建設や天然ガスの開発は国際的な協力により続けられており、平成29年から北極海航路を通じたLNGの輸出が始まると見込まれています。航路の安全性の確保、環境の保全、先住民の権利の保護、北極を取り巻く国際政治の把握等々、研究者が取り組むべき課題が多いことがこのシンポジウムを通じて明らかになりました。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



会場を埋めた聴衆



レセプションの様子

メディア・コミュニケーション研究院公開講座 「関西弁を通して学ぶ言葉の魅力」が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、平成28年度公開講座「関西弁を通して学ぶ言葉の魅力」を、6月9日～7月14日の毎週木曜日、全6回にわたり実施しました。

本講座では主に札幌在住の方を対象に関西弁の魅力について語り、実際に関西弁のテキストを用いて発音練習、文法変換練習などを行いました。中には、関西出身の方もいらっしゃったので、その方にもお話を伺いながら講座を展開しました。

講座では、講師の山下好孝教授が説明するだけでなく、公開講座の受講者に2人ずつペアになってもらい、関西弁で問答するというペアワークも取り

入れました。また、関西弁だけでなく、標準語との違い、北海道弁との違いなどを説明し、受講者の「母語」についても考えてもらいました。ご年配の方が多かったため、日頃接している北海道出身の本学学生とは使用言語の

様相がかなり異なっていることを身をもって体験できるという、講師にとっても貴重な経験となりました。

(国際広報メディア・観光学院、
メディア・コミュニケーション研究院)



ペアワークを行う受講者



熱心に聞き入る受講者

文学研究科で科研費申請に関するFD研修を開催

文学研究科では、より一層の研究力強化のため、昨年度より様々な科研費支援に取り組んでいます。今年度は、その第1弾としてFD研修を企画し、7月15日（金）に科研費支援のスペシャリストである山崎淳一郎研究推進部長・URAステーション長を講師に、科研費申請に関するFD研修「<科学研究費獲得法2016> 科学研究費申請スキル強化書：2017申請に向けて」を開催しました。

山崎研究推進部長は、科研費不採択の原因の多くは、自分の研究の魅力や

すばらしさを科研費計画調書にうまく表現できていないところがあると分析し、読み手である審査員の琴線に触れる調書を書くためのポイントについて、準備段階で心がけることから、実際の調書で項目ごとに注意すべき点まで、詳細に説明しました。

専門性の高い研究内容をわかりやすく伝える方法については、TEDカンファレンスでのプレゼンテーションやアインシュタインの言葉、人間の「脳のグループ化機能」等を使い、説得力のある説明がなされました。また、文

系が陥りやすい不採択要因の中に、方法論での説明不足や意義・重要性のアピール不足をあげ、第三者の目を通すことが大切であると強調しました。

本研修では、文学研究科教員、科研費に関わる職員・URAら、60人以上の参加者がありました。本テーマへの関心の高さがうかがえるとともに、多くの参加者が科研費申請に向けてのヒントを得られた大変有意義なFD研修でした。

(文学研究科・文学部)



山崎研究推進部長・URAステーション長



講演の様子



会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、日本公認会計士協会北海道会の協力を得て、7月11日（月）に、人文・社会科学総合教育研究棟102教室において、公認会計士制度説明会を開催しました。

この説明会では、公認会計士が行っている多様な業務について説明し、公認会計士試験制度に関して最新の情報を提供しています。また、現役の会計士の方から、公認会計士としての仕事と試験準備の経験談などが話されます。公認会計士に関する最新の生の情報を提供することで、経済学部ばかりではなく、広く本学の学生に公認会計士についての正しい認識をもってもらい、その資格取得を目指す学生に具体的な指針を提供することを目指しています。

説明会では、池田裕一日本公認会計士協会北海道会広報委員長の司会進行により、まず富樫正浩日本公認会計士

協会北海道会会長による説明会の趣旨説明と、春日部光紀会計専門職大学院院長代理による挨拶の後、公認会計士の業務が簡潔にまとめられたDVDを上映しました。

続いて、加藤俊尚日本公認会計士協会北海道会広報委員から、公認会計士の業務に関する説明と平成27年度公認会計士試験の状況及び採用状況の説明が行われました。

中野哲行日本公認会計士協会北海道

会会員からは、大手企業の監査や組織内会計士等の実務経験に関するお話、今井由里子日本公認会計士協会北海道会準会員からは、受験勉強や監査での経験等のお話があり、お2人の先生に公認会計士のプロフェッショナルとしての厳しさとやりがいを語っていただきました。その後、質疑応答を行い、参加学生は熱心に質問していました。

（経済学研究科・経済学部）



説明会の様子

経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターでシンポジウムを開催

経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターでは、北海道経済学会との共催により、7月30日（土）、学術交流会館小講堂において、シンポジウム「北海道の成長の姿を考えるー人口減少、グローバル時代の地域戦略とはー」を開催しました。本シンポジウムは、北海道経済学会にとっては、記念すべき第100回のシンポジウムとなりました。

シンポジウムでは、北海道経済連合会名誉会長の大内 全氏、鶴雅ホールディングス株式会社代表取締役社長の大西雅之氏、浜中町農業協同組合代表理事組合長の石橋榮紀氏の3氏による基調講演が行われました。

大内氏は「北海道の長期的発展に向けて」と題し、北海道経済がこれから向かうべき方向性、とりわけ産業としての観光、一次産業そしてエネルギーの重要性を論じられました。大西氏は「北海道観光の課題と戦略」と題し、自らの阿寒での経験から、インバウンド客の増加で潤う北海道の観光産業で

はあるが、一方で国内客は減少していること、北海道観光には大きな可能性があり、地域づくりと一体となった戦略的な観光事業が必要であることを説かれました。石橋氏は「北海道農業の可能性と挑戦」と題し、全国から注目される浜中町の農業、とりわけ酪農の成功は、長期的かつ地域に即した計画によること、これにより新規就農者を呼び込むことができ、また出生率も上がり、地域の維持発展に繋がったことを示されました。

この後、公共政策学連携研究部の小磯修二特任教授（北海道経済学会代表理事）をコーディネーターに、基調講演者の3氏を加えてパネルディスカッションが行われました。ここでは、短い時間ながらそれぞれの経験に基づくエピソードも紹介され、講演内容を一層深めることができました。

シンポジウムには、北海道経済学会会員のみならず、学内外から180名を超える多数の参加者がありました。本シンポジウムにより、観光や一次産業

を含めた北海道経済の将来を展望し、また本学から発信する機会を得ることができました。

（経済学研究科・経済学部）



講演に熱心に聴き入る参加者



パネルディスカッションの様子

工学系部局で「第1回こころのケアに関する講習会」を開催

工学系部局では、7月15日（金）に工学研究院L200講義室において、工学系部局なんでも相談室の石原一人カウンセラーによる「第1回こころのケアに関する講習会」を開催しました。

近頃、なんでも相談室において「発達障害」に関して寄せられる相談が増加傾向にあります。そのような状況から、昨年1月の講習会に引き続き、発達障害の特性についての理解と支援のために「『発達障害』その特性の理解と支援ーアスペルガー症候群、注意障害、学習障害における二次障害の予防を考えるー」をテーマとして取り上げ

ました。

受講者は教職員及び学生33名で、熱心に講演を聴き、質疑応答も活発に交わされました。

工学系部局では、今年度教職員向け

に「第2回こころのケアに関する講習会」を開催する予定です。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター）



講演する石原カウンセラー



受講風景

北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

医学研究科及び歯学研究科では、8月3日（水）に北海道大学納骨堂（豊平区平岸）において、医学及び歯学研究のため尊い御遺体をささげられた御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、山口佳三総長、笠原正典医学研究科長、横山敦郎歯学研究科長ら31名が参列し、参列者全員による黙とう及び献花を行い、厳粛のうちに慰霊式が終了しました。



黙祷をささげる参列者



献花をする山口総長

（医学研究科・医学部）

北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施

北海道大学病院では、7月6日（水）に、夜間に火災が発生した場合を想定した防火訓練を実施しました。

今回の訓練は9階東側病棟の給湯室から出火したことを想定したもので、参加した医師、看護師らは真剣な面持ちで、通報連絡、初期消火及び模擬入

院患者の避難誘導の訓練に取り組みました。

訓練終了後、公益財団法人札幌市防災協会の係官から、「実際の火事と比べると、訓練で行っていることは最低限のことだが、それらを確実に出来るようにすることで被害を減らすことが

出来る」との講評がありました。

病院は常に患者さんの安全を守る立場にあることから、訓練の重要性を再確認する機会となりました。

（北海道大学病院）



搬送される模擬患者



消火器訓練の様子

北海道大学病院で「第54回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施

北海道大学病院では、7月27日(水)、病院アメニティホールにおいて「第54回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催しました。毎年、患者サービス推進委員会が中心となって色々な企画をしていますが、今年も盛りだくさんの内容で開催されました。

コンサートの開演前から行われる縁日コーナーでは、入院中のお子さんが輪投げやヨーヨー釣りを楽しみ、バルーンアートを手にして、アメニティホールに集まりました。「早く退院できますように」などの患者さんの願ひ

が込められた短冊が涼やかな雰囲気を感じ出す中、コンサートは寶金清博病院長の挨拶で開幕しました。

まず、HBC少年少女合唱団により、心洗われるような合唱が披露されると、続く札幌国際情報高等学校なぎなた部による「リズムなぎなた」では、七夕の夕べにふさわしい日本の伝統競技に会場は魅了されました。その後、今年も北海道大学“縁”によるYOSAKOIソーラン演舞が披露され、会場は大変な熱気に包まれました。

最後に、佐藤ひとみ看護部長の挨拶

で、北海道大学病院の夏の風物詩である「七夕の夕べ」は幕を閉じました。

(北海道大学病院)



今年も好評を博した縁日コーナー



HBC少年少女合唱団による合唱



札幌国際情報高等学校なぎなた部による演技



北海道大学“縁”による演舞

附属図書館でフィンランドをテーマとした図書展示を開催

6月13日(月)から7月7日(木)にかけて、附属図書館(北図書館)において、「北海道大学フィンランドデー：関連資料展示」を開催しました。

これは、附属図書館が北海道で唯一のEU情報センターであることから、そのアウトリーチ活動の一環として開催したもので、本学ヘルシンキオフィ

スの主催により6月25日(土)に開催されたイベント「北海道大学フィンランドデー：みんなで夏至祭を楽しもう！」と連動して実施しました。

ヘルシンキオフィスの成田吉弘所長をはじめ、フィンランドに関連する授業を担当する本学教員のほか、「北海道大学フィンランドデー」講師陣等の

協力により、フィンランドにまつわる資料54点を紹介者のおすすめコメントとともに展示しました。展示期間中は、貸出可能な資料52点のうち41点が貸し出されるなど、利用者のフィンランドに関する関心の高さがうかがえました。

(附属図書館)



展示の様子



附属図書館「めざせ100万語！英語多読マラソン」 スタートアップガイダンスを開催

7月8日（金）に附属図書館北図書館3階グローバルフロアにおいて、「めざせ100万語！英語多読マラソン」スタートアップガイダンスを開催しました。

「めざせ100万語！英語多読マラソン」とは、図書館の英語多読教材コーナーの図書を読み、その本の単語数を合算して100万語を目指すという、附属図書館が企画する学習支援事業の一つです。

「英語多読マラソン」をこれから始めようとする学生・教職員や、始めて間もない参加者のために、多読のメリットや多読の進め方・コツなどを紹介して、企画への参加を促すとともに、実際に多読図書を手にとって読んでみて、自分に合った多読図書の選び方や読み方を学ぼうという趣旨で、3

部構成のガイダンスを開催しました。

第1部では、図書館職員が、Web上で語数を管理するシステムの利用方法について説明しました。

第2部では、本学で英語多読・多聴を授業で取り入れているメディア・コミュニケーション研究院の高見敏子准教授から「辞書はひかない」「わからないところは飛ばす」「自分に合わないと思ったらやめる」という多読の3原則を中心に、肩肘張らず楽しく行うのが良い、難しめの本を選びがちなので最初は易しめの本を選ぶことなど、多読マラソンの進め方やコツについて話がありました。

第3部では、多読図書読書体験会を行いました。会場となった新渡戸エリアには多読図書が配置されており、高見准教授がセレクトした多読図書をそ

れぞれ参加者が手にとって読みました。参加者は12名でした。

英語多読は、簡単な英語で書かれた図書を多く読むという学習法で、英語を勉強しなければと思いつつなかなか始められない方も、手軽にまた気楽に始めることができます。「英語多読マラソン」には、現在800名以上の学生・教職員が参加しています。詳しくは「英語多読マラソンホームページ」をご覧ください。

◆英語多読マラソンホームページ
http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/tadoku_marathon/
または「多読マラソン」で検索

（附属図書館）



説明する高見准教授



読書体験学習会の様子

太田守名誉教授より大学文書館で沿革資料を受贈

7月11日（月）、大学文書館では、太田守名誉教授より沿革資料をご寄贈いただきました。

太田名誉教授は、1951（昭和26）年北海道大学工学部生産冶金工学科を卒業し、大学院特別研究生を経て、工学部助手、札幌医科大学助手、東京医科歯科大学助教授などを務められ、この間、医学博士号を取得されました。1968（昭和43）年に北海道大学歯学部

に助教授として赴任、翌年教授に昇任され、1992（平成4）年まで務められました。ご専門は歯科理工学です。

ご寄贈いただいた資料は、太田名誉教授ご本人の学生時代の写真や書簡、本学職員であったご養父太田善久氏旧蔵の職員仲間や本学キャンパスの写真、本学医学部で学位を取得されたご実父馬島廣氏の論文別刷や学位請求関係文書、札幌病院長を務められたご

祖父馬島讓氏の履歴資料などです。特に1930～1950年代の本学キャンパスの写真は、当時の大学の様子を知ることができる非常に貴重なものです。

ご寄贈いただいた資料について、今後、大学文書館において大切に保管し、広く利用に供してまいります。

（大学文書館）



工学部と大野池（1952年春）



正門（1952年）



古河講堂（1951年）



電子顕微鏡一号機（1951年）



低温科学研究所（1951年）

■お知らせ

被扶養者の要件の確認

「被扶養者の要件の確認」を本年9月中に行います。

については、認定されている被扶養者の認定条件に必要な添付書類を9月上旬に確認が完了するよう早期に手配し、被扶養者申告書とともに所属している部局等の共済事務担当係へ提出願います。

なお、被扶養者申告書に現在使用中の組合員証等の添付は不要です。

また、国家公務員共済組合連合会より送付される「ねんきん定期便」が届くよう、被扶養者申告書の住所を確認し、変更がある場合は、速やかに届出ください。

おって、「被扶養者の要件の確認」の詳細は各学部等の共済事務担当係にお問い合わせください。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

■レクリエーション

平成28年度学内バレーボール大会の開催

職員レクリエーションの一環として例年実施しているバレーボール大会を、7月12日(火)から26日(火)まで、第2体育館で開催しました。今年度も多くの教職員が参加し、活気あふれる大会となりました。

なお、結果は以下のとおりです。

(職員排球部)

大会結果

- 優勝 財務部主計課・経理課
- 準優勝 薬学部
- 第3位 理学・生命科学事務部事務課



優勝 財務部主計課・経理課

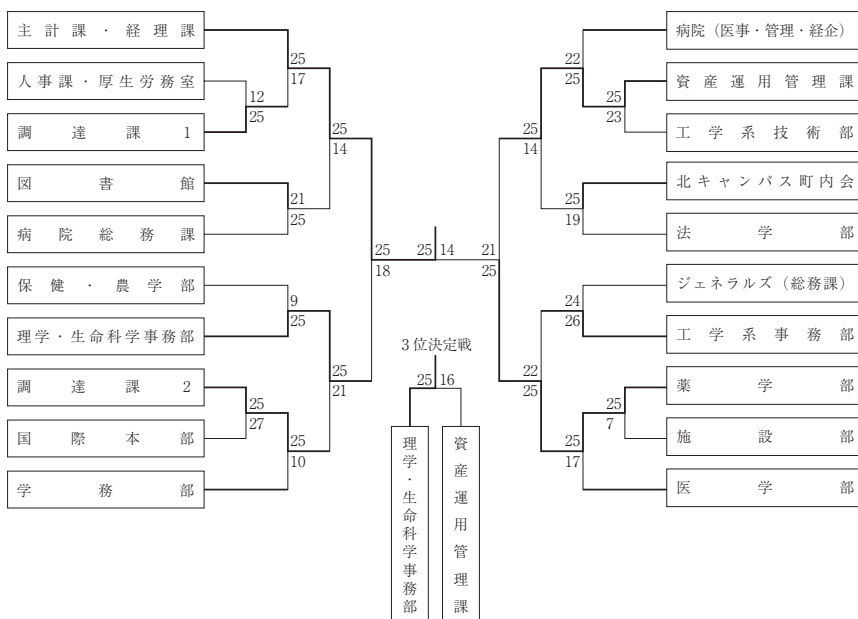


準優勝 薬学部



第3位 理学・生命科学事務部事務課

平成28年度学内バレーボール大会組合せ表



■ 諸会議の開催状況

役員会（平成28年7月11日）

議案・平成29年度概算要求提出について

協議事項・泥炭地回復庁（インドネシア）との連携協定の締結について
・全学運用教員の措置について

報告事項・平成28年度北海道大学進学相談会について

・4研究科（医，歯，獣，経）及び工学院の改組に係る設置審査の結果について
・平成27事業年度財務諸表の承認について

教育研究評議会（平成28年7月20日）

議題・経営協議会の学外委員について

・泥炭地回復庁（インドネシア）との連携協定の締結について
・教員募集に係る国際公募の実施について

報告事項・全学運用教員の実施状況報告について

・大学間交流協定の新規締結について
・4研究科（医，歯，獣，経）及び工学院の改組に係る設置審査の結果について
・平成27事業年度財務諸表の承認について

役員会（平成28年7月25日）

議案・泥炭地回復庁（インドネシア）との連携協定の締結について

・教員募集に係る国際公募の実施について

報告事項・平成29年度概算要求の提出について

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

北海道大学電子科学研究所規程の一部を改正する規程

（平成28年7月19日海大達第118号）

本年6月1日付けで，電子科学研究所の光科学研究部門及び物質科学研究部門に置く研究分野の名称を改めること，生命科学研究所に置く研究分野を廃止すること並びに連携研究部門に新たな研究分野を置くことに伴い，所要の改正を行ったものです。

■ 研修

平成28年度「統計学の初歩」講座

開催期間：平成28年7月19日（火）

開催場所：北海道大学附属図書館本館2階リテラシールーム

研修目的：教職協働による大学運営が重要とされるなか、今後、事務職員も大学経営に参画できる人材となるべきであり、大学経営を行うためには、客観的データに基づいた判断（エビデンス・ベースド・マネジメント）が必要となる。事務職員に論理的根拠を構築する能力を備えさせるために、教育、研究その他大学の諸活動に関する情報分析のツールである「統計学の基礎的知識」を習得させる。



重田勝介准教授による講義



グループでのディスカッション



受講生による発表



Excelを使った統計分析実践講義

（財務部主計課）

表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
28.7.13	To Huy Rua 越日友好議員連盟会長	両国の交流に関する懇談
28.7.14	南開大学（中国）Naijia Guan 副学長	両大学の交流に関する懇談
28.7.14	忠北大学（韓国）朴 鍾燮 教授（北海道大学アンバサダー）	アンバサダーの活動に関する懇談
28.7.20	Andrijana Cvetkovik 駐日マケドニア共和国大使	両国の交流に関する懇談



To Huy Rua 越日友好議員連盟会長（中央左）



南開大学（中国） Naijia Guan 副学長（前列中央）



忠北大学（韓国）
朴 鍾燮 教授（北海道大学アンバサダー）（左側）



Andrijana Cvetkovik
駐日マケドニア共和国大使（中央左）

（国際本部国際連携課、国際企画課）

人事

平成28年7月4日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【教授】 大学院工学研究院教授	長谷川 祐 司	採用

平成28年7月11日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【課長・事務長・室長】 （免・国際本部国際連携課長） 国際本部国際連携課長	川野辺 創 齋 藤 幸 義	国際本部副本部長（兼）国際連携課長 内閣府政策統括官付参事官補佐

平成28年7月15日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【准教授】 触媒科学研究所准教授	古 川 森 也	東京工業大学理学院助教

平成28年7月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【講師】 北海道大学病院講師	西 尾 妙 織	北海道大学病院助教
【助教】 北海道大学病院助教	藤 枝 雄一郎	採用

平成28年7月22日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 (辞職)	海 部 摩 衣 竹 田 真 夕	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師

平成28年7月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【専門員】 (辞職)	高 橋 寛 子	函館キャンパス事務部専門員
【技術職員等】 (辞職)	伊 東 伸 也 柿 本 静 香 片 岡 美 穂 平 山 華 子 福 富 果 乃 子 宮 原 由 里 加 中 居 洋 子	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部助産師

平成28年8月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授 国際連携研究教育局・大学院農学研究院教授 (転出) 環境省	倉 谷 英 和 曾 根 輝 雄 外 山 洋 一	国土交通省自動車局環境政策課地球温暖化対策室長 国際連携研究教育局・大学院農学研究院准教授 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授
【准教授】 国際連携研究教育局准教授	CORNER MARK DOUGLAS	採用
【講師】 北海道大学病院講師	夏 賀 健	北海道大学病院助教
【助教】 大学院医学研究科助教 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教 北海道大学病院助教 国際本部助教	中 川 雅 夫 北 崎 一 義 田 上 貴 祥 山 田 珠 希 W. M. C. SAMEERA	採用 採用 採用 採用 採用
【専門職 (学術)】 産学・地域協働推進機構学術専門職	杉 村 逸 郎	採用

新任教授紹介

平成28年7月4日付



工学研究院教授に

は せ が わ ゆ う じ
長谷川 祐司 氏

応用物理学部門
光波動量子物理工学分野

最終学歴

東京大学大学院工学系研究科博士後期課程修了（平成5年3月）
博士（工学）（東京大学）

専門分野

量子光学実験

平成28年8月1日付



公共政策学連携研究部
附属公共政策学研究センター教授に

く ら や ひ で か ず
倉谷 英和 氏

エコ・ウェルフェア部門

生年月日

昭和45年

最終学歴

九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科博士前期課程修了（平成7年3月）
修士（芸術工学）（九州芸術工科大学）

専門分野

環境政策



農学研究院教授に

そ ね て る お
曾根 輝雄 氏

連携研究部門連携推進分野

生年月日

昭和44年 5月11日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成9年3月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

応用分子微生物学

新任部課長等紹介

平成28年7月11日付



国際本部国際連携課長に

さいとう ゆきよし
齋藤 幸義 氏

昭和56年3月生

一橋大学経済学部卒業

平成17年11月 文部科学省高等教育局学生支援課

平成19年8月 文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課

平成21年4月 文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課基礎人材係長

平成21年11月 文部科学省初等中等教育局国際教育課企画調査係長

平成23年7月 文部科学省研究振興局振興企画課総括係長

平成24年7月 文部科学省大臣官房人事課計画調整班専門職
（長期在外研究員（イギリス・ロンドン大学））

平成26年7月 内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション
担当）付参事官（基本政策担当）付参事官補佐

編集メモ

●緑のビアガーデン2016が先月末に無事終了しました。今年は2日目からあいにくの雨となり天候に恵まれませんが、百年記念会館を全館開放し、例年とは違う雰囲気を皆様に楽しんでいただきました。

●「ホームカミングデー2016」まで約1ヶ月となりました。オフィシャルサイトでは受付を開始しています。ガイドブックも掲載しましたので、ぜひご覧ください。

◆<http://www.hokudai.ac.jp/home2016/>



2009.8.15 函館本線 赤井川（森町）

北の鉄道風景 41 オオハンゴンソウ咲く頃

北国の短い夏が終わりを迎えようとする頃に開花するオオハンゴンソウ。その原産地は北米であって、日本には園芸植物として明治時代に持ち込まれたそうだ。その後、北海道から本州の中部以北の北日本を中心に広く帰化した。荒地や湿原などの多様な環境で大規模な群落を形成して繁茂することから、在来植物の生態系への悪影響が懸念されてい

る。そのため、今日では、特定外来生物に指定されており、無許可での栽培や保管などは外来生物法によって禁じられている。写真は道南・森町の赤井川駅を発車する「SL函館大沼号」、この駅の線路際にもオオハンゴンソウが咲き乱れていた。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑧ No.749 平成28年8月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html